

大学院で保健師を目指しませんか？

武庫川女子大学 大学院 看護学研究科 修士課程

看護学研究保健師コース

<標準修業年限2年>

保健師は、乳幼児や妊産婦、成人、高齢者といった全ての年齢層の方を対象とし、地域で暮らす人々が病気にならないように、健康でいられるように、病気と上手にお付き合いができるように、ご本人、ご家族、地域の人々と共に考え、支援を行う看護職です。

近年、少子高齢社会の進展、人々の価値観の多様化、健康格差の広がり、家族や地域のつながりの希薄化などに伴い、健康問題が複雑困難化している中、それらに対応できる質の高い保健師が求められており、本学では大学院で養成しています。

保健師国家試験 受験資格取得

- 修士の教育課程(看護学研究コース)に保健師の教育課程を加えた、充実したカリキュラムで保健師国家試験受験資格取得をサポート。
- 授業料は看護学研究コースと同じです。

少人数制 実践力を養う教育

- 1学年6名程度に対し、教員は4名の体制で全力サポート。
- 実践力を養う教育を展開。

充実した臨地実習

- 1年生では1年間を通じた母子と高齢者への継続家庭訪問。
- 2年生では都市部と山間部のW実習地で、それぞれの地域特性に応じた実習。

※裏面参照

修士(看護学) の学位

- 保健師国家試験受験資格と修士(看護学)学位のW取得で、キャリアプランをサポート。
- 実習地の地域診断から見出された課題の解決・改善に向けての研究を実施。

在学生・修了生の声

【Aさん・20代】

実習では、1年次に乳児と高齢者への継続家庭訪問を行います。訪問後は、実習指導者からの助言を受け、さらに学生同士で意見交換することで、視野が広がりました。対象者と徐々に信頼関係が築けていることを実感できた時は、とても嬉しかったです。

【Bさん・20代】

私はこれまで看護師として患者さんと関わって行く中で、病院看護師として患者さんの生活に合わせた退院指導を日々行っていました。退院してもすぐに戻ってこられる患者さんを多く目にする中で、地域での関わりの重要性や一次予防の必要性を強く感じ保健師を志すようになり、大学院で学ぶことを選択し進学しました。

卒業後の進路の例

- ▶ 市町村(政令指定都市・中核市含む)の保健師、地域包括支援センターの保健師
- ▶ 産業分野の保健師

入試案内

【2022年度入学試験】

- 募集人員／看護学研究保健師コース6名程度(男女共学)
- 日 時／推薦入試…2022年6月4日(土)
前期募集…2022年10月1日(土)、後期募集…2023年2月12日(日)
看護学研究保健師コースは、推薦入試と前期募集で定員を充足しなかった場合に後期募集を実施することがありますので、必ず出願前(2022年11月中旬以降)に本学の看護学研究科のwebサイトでご確認ください。
- 前期・後期募集の入試科目／面接、筆記試験(英語、専門科目…看護学の基礎学力を問う問題)
※推薦入試は、武庫川女子大学看護学部を卒業見込みの者を対象に実施する
- 募集要項／下記の大学ホームページから請求できます

お問い合わせ

武庫川女子大学大学院 看護学研究科 公衆衛生看護学分野

<アクセス> 阪神電車本線「鳴尾・武庫川女子大前」駅下車 東へ徒歩3分
和泉京子: izumik@mukogawa-u.ac.jp
大学ホームページ: <http://www.mukogawa-u.ac.jp/>



充実した臨地実習の実際

※()内は2021年度の実習地

公衆衛生看護活動展開実習:3週間(西宮市)



3歳児健診での健康教育場面
テーマは“親子で楽しく手洗しよう”

地域診断をもとに立てた実習計画にそって実習を展開します。個から集団へ対象を拡げ、保健所・保健センター等で行われている保健事業への参加および個別への支援の積み重ねから、保健活動の実際を学びます。

<参加事業例> 乳児健康相談、1歳6か月児・3歳児健診、プレマ料理教室、ひきこもり青年の家族交流会

公衆衛生看護管理実習:1週間(西宮市)

施策の企画、立案、実施および評価の実際を学ぶため、市の保健分野に関連する委員会や審議会等への出席や管理職の保健師への同行等を行います。

<出席会議等例> 西宮市地域福祉計画策定委員会、健康フェア実行委員会、管理職の各保健センター巡回への同行

1年前期・後期

個人・家族

2年前期

集団・地域
(都市部)

2年前期

集団・地域(山間部)

2年後期

施策化

公衆衛生看護コミュニティ展開実習:2週間
(朝来健康福祉事務所・朝来市)



育児相談での一場面

“何か心配なことはありますか?” 精神障害者家族会、健康ウォーキング教室

実習地域の健康課題に沿った保健活動の展開を行い、健康課題の解決に向けた地域特性をふまえた保健活動の実施・評価ができる能力を養います。

公衆衛生看護活動展開実習の都市部とは異なる、山間部の文化や生活等を学び、保健活動の共通点や相違点を考察することにより普遍的な保健活動と地域特性に応じた保健活動のあり方を探求します。

<参加事業例> 8か月児健診、1歳育児相談、高血圧健康教室、

精神障害者家族会、健康ウォーキング教室

広域実践看護学実習(公衆衛生看護学):1年間
(西宮市地域包括支援センター・武庫川女子大学子育てひろば)

家庭訪問の場面



“大きくなったかな?”

インタビュー場面



“体調はお変わりありませんか?”



“活動継続の秘訣は何でしょうか?”

乳児と高齢者への継続家庭訪問(各8回・計16回)を実施し、対象者を家族として捉え継続支援について検討します。この継続したアウトリーチ活動により、自ら対象者と関係を構築できる対人関係能力を養うとともに自立心と判断力を獲得していきます。

地域の社会資源を把握するため、社会資源の見学とキーパーソンへのインタビュー、実際に対象者の住むまちを歩いて地域の特性を理解する地区視診も行います。

実習以外にも実践の機会がたくさんあります

地域の介護予防事業での場面



健康相談

“健康のために気をつけていることはありますか?”



健康教室

2021年度は地域の介護予防事業に参加されている方へ健康に関する教室や相談を企画し、実施しました。